平成２４年度長野県生涯学習審議会の概要について

文化財・生涯学習課

日　時：平成24年12月11日（火）11時00分～16時00分
会　場：下水内郡栄村（栄村役場、小滝公民館、栄小学校）
テーマ：「学びの絆で地域力を高める生涯学習の推進」
生涯学習審議会の答申（H21.10）を受けて県内の生涯学習の推進状況を把握するため、長野県北部地震（H23.3.12）により甚大な被害を受けた栄村を訪問して、生涯学習・社会教育が村の復興にどのような役割を担ったか視察させて頂く

Ⅰ　実践発表

(1)「栄村復興支援機構『結い』の活動について」

栄村復興支援機構『結い』代表　相澤　博文 氏

◇震災５日後、NPO等８団体からなる支援機構を立ち上げ
・避難所の運営　・ボランティアの受入
・避難所での新聞の発行・夏休み子ども支援
・仮設住宅引っ越しの手伝い等の活動を展開
→復興支援（地域課題）、地域住民の声に

相澤代表の実践発表　栄村役場

◇ボランティアの果たす役割
・支援を受ける側、行う側の枠を越えた交流が大切
（互恵(WinWin)の関係）

(2)「集落公民館の震災対応・復興について」

小滝公民館長　中沢　謙吾 氏

◇小滝(17戸)避難生活　小滝公民館全壊
・家に戻れる者、避難所生活が続く者、村外に生活の場を移す者とバラバラ
・震災から１ヶ月余後、4/24「お茶飲み会」企画
→集落の輪から孤立しないように、事あるごとに集まる場を設定した

中沢館長の実践発表　小滝公民館

◇地域コミュニティの拠点（公民館）の再建は、自分たちの手で
・内装等できることは住民で作業　・今の気持ちをメッセージとして壁に書き残す

(3)「小学校の震災対応・復興及び自然学校の取組等について」

栄小学校長　渡辺　要範 氏

◇栄小学校（北信小学校と東部小学校が統合）玄関・体育館等に被害　避難所の開設
・卒業式・閉校式延期3/15→3/24　・避難所3/12～3/31　（200名を越える人が避難）
・花壇の整備、サッカー教室等、多くの皆さんから支援や激励を頂く
→*「栄村は元気です　ありがとう」*のメッセージを発信した

◇地域とともにある学校を、震災・避難所で再認識
・６年生と児童会　村民の笑顔の写真1,000枚を撮りモザイクアートづくり
・子どもたちは「災害弱者」ではなく、逆に大人を元気付けてくれる強い存在

Ⅱ　生涯学習の振興に関する委員からの主な意見

【若者の地域貢献による地域活性化】

・商業科の高校生が地域の課題を考える「地域人教育」を展開
　→多くの高校生は都会に目が向いているが、地域の中で大事に育てられた生徒は地元に目が向き地元が好きだと答える生徒が多い。

・大学生が地域に飛び出し、主体的に地域貢献の活動を展開
　→実践を重ねるたびに、他に喜んでもらう事が自分の喜びになり、地域貢献の精神という極めて高度な喜びに変わっていく。

・若手の蕎麦屋、東北石巻の仮設住宅を訪問し蕎麦を提供
　→自分たちの活動が前向きな活動に変わっていくことを実感

【学校・家庭・地域の連携・協力】

・子どもを取り巻く環境が複雑化し、学校では対応しきれない事柄が増加
　→地域の力を借りて学校と地域が連携して対応することが大切

・小学校児童会が中心になり縦割りグループをつくって地域清掃を実施
　→地域とつながり褒めて（評価して）もらうことで、子ども達の存在感を地域に示すことができた。

委員による意見交換

【地域が支える子育て】

・子どもの夏休み、お母さんと一緒に会社に出勤、工場見学や学校の宿題ができる部屋を確保して子育て応援をする企業
　→企業が、安心して働くことができるお母さんの子育てを応援

・高校を中退した若者、食生活が乱れ礼儀作法もひどく欠けている。
　→幼児の親子農業体験教室を通して、食農教育の大切さを伝えている。

【既存団体の活性化】

・今まで地域で大事な役割を担ってきた婦人会等の活動が、高齢化のために消えかかっており心配
　→大事な活動を継承するための協議の場・システム作りが必要

土井会長のまとめ ～小滝公民館の再建に向けた取組を例にして～

人は寄り集まり語り合う場が必要である。
そのために小滝の皆さんは公民館の再建にいち早く取り組んだ。
ここに自分たちの居場所があり、存在の証があるからである。
小さい子どもたちにも、それを分からせようと壁にメッセージを書かせた。
そして、完成した公民館に集い正月の行事をみんなで楽しんだ。
この脈々と営まれる取組こそが、「学びの絆で地域力を高める生涯学習」の実践であり、地域の力が凝縮されている。

復興した小滝公民館

大震災からの一歩

栄小学校ＰＴＡ会長
上倉　学

統合という大きな節目を迎え、新たな一歩を踏み出した栄小学校、その栄小学校として初めての学校生活が一年を終えようとしています。そしてまた、栄村を襲った長野県北部地震からもちょうど一年が経過します。

平成二十三年三月十二日午前三時五十九分、突き上げるような衝撃と、全てを破壊してしまうような大きな揺れに、自宅二階で寝ていた私と妻、そして子どもたち四人は、たたき起こされました。足の踏み場もないほど荒れた室内、気が付くと横で寝ていた妻と子どもにとっさに覆いかぶさっていました。妻の「重いー」の一言で我に返った私は、このままでは家が潰れてしまうという恐怖に駆られ、外に出ようと慌てて子どもを抱きかかえました。するとそこには、小さな体をただただ震わせ、恐怖のあまり泣くこともできずにいる我が子の顔がありました。不安に押し潰されそうなその顔は、今でも脳裏に焼き付き忘れることができません。

震度6強という揺れは、栄村内の多くの家屋に損壊・倒壊という被害をもたらし、村民の大部分は避難所生活を強いられる、まさに未曾有の大震災となってしまいました。そしてまた、統合・開校を目前に控えた栄小学校も、壁や校庭がひび割れ、体育館の天井が損傷するなどの大きな被害を受けました。校舎は、避難所として多くの人達が集まり、その中には、この校舎で避難所生活ではなく学校生活をスタートさせていたであろう子どもたちの姿もありました。

一般的にこのような時、子どもは「災害弱者」と言われています。しかし、避難所生活を送る中で、それは間違いであると強く感じました。連日続く余震、避難所という慣れない集団生活、誰もが先の見えない不安に押し潰されそうになっている時、辛い状況の中とは思えないほどの笑顔を子どもたちは見せてくれました。その元気な姿、そして笑い声は、疲れきってしまった大人たちの心に優しく響き、希望を与えてくれる唯一の存在でした。心に大きな爪痕が残ってしまった子どもたち、それをケアしなければならない私たち大人を、逆に元気付けてくれる子どもたちは、「災害弱者」などではなく、誰よりも強い存在であると避難所生活を通して感じることができました。

大震災からちょうど一ヶ月、遅れてはしまいましたが、無事開校式・入学式が行われ、誰一人欠けることなく栄小学校をスタートすることができました。全てが初めての経験、より良い統合に向け試行錯誤する栄小学校に、あらゆる場面で震災という壁が立ちはだかりました。ＰＴＡ活動は、中止・変更といった活動自体を制限しなければならない苦しい状況が続き、何より子どもたちの学校生活は、プールや体育館が使えないなど、大変不自由なものとなってしまいました。

しかし、そのような状況の中、統合し初めての音楽会、その中で披露してくれた『みんなの栄村』には、栄小学校全校児童一人一人の想いが込められ、震災に負けずに頑張っていこうという心強いメッセージが込められていました。

「こんな村に生まれて良かった」、音楽会で子どもたちが歌う『みんなの栄村』を初めて耳にした時、こどもたちの栄村に対する熱い想いに感動すると同時に、震災を乗り越え強く逞しく成長している子どもたちの姿が、眩しく輝いて見えました。

ＰＴＡ会長を努めさせていただき、子どもたちをより間近で感じることができたこの一年、子どもたちが多くの人たちに支えられ、勇気づけられながら頑張る姿を目にすることができました。応援してくださる人の温かさを心から感じ、手を取り合い、心を一つに共に歩んでいく人と人との絆、学校の勉強だけでは学ぶことのできない大切なことを、子どもたちは学ぶことができたと思います。

私達保護者は、子どもたちのことを第一に考え、子どもたちを全力で支える立場にあります。しかし、震災を通して、またＰＴＡ活動を通して、私達保護者の支えとなり頑張る力とになっているもの、それは紛れもなく子どもたちの存在であり、楽しそうに栄小学校に通う子どもたちの笑顔だとあらためて感じることができました。

震災は、子どもたちの心に大きな爪痕を残し、また栄小学校にも大きな被害をもたらしていきました。しかし、同時に様々な教訓を残し、沢山の大切なことにも気付かせてくれました。栄小学校はまだまだスタートしたばかり、この激動の一年で得た多くのものを栄村の未来へと、そして、栄小学校の未来へと繋げていき、栄小学校が更に発展することを心から願います。

最後になりましたが、ご支援いただいた皆様、温かく見守りいただいた地域の皆様、統合・震災にと沢山のご苦労をされながらＰＴＡ活動にご協力いただいた保護者の皆様、そして、いつも近くで子どもたちを優しく包み込んでくれた栄小学校の諸先生方、大勢の皆様からご協力いただきましたことを、心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

長野県生涯学習審議会答申の概要

【背景】	【観点】	【国・県の動向】
○科学技術の高度化や就業構造の変化 ○急速な少子高齢社会の進行 ○「団塊の世代」の大量退職 ○中山間地・農村地域の過疎化 ○中心市街地商店街の衰退 ○家庭・地域の教育力の低下等	○社会の変化や課題に対応した生涯学習活動の推進 ○学んだ成果を地域に生かし、家庭・地域の教育力の向上につながる環境づくり	○教育基本法改正 ○中央教育審議会答申 ○長野県中期総合計画 ・生涯を通じた学びや育ちの環境づくり ○長野県教育振興基本計画 ・社会全体で共に育み共に学ぶ教育の推進

新しい時代にふさわしい長野県の生涯学習振興のあり方について

これからの生涯学習振興の基本的方向

【基本目標】　学びの絆で地域力を高める生涯学習の推進

～人や地域とかかわって学び、学びの成果を人や地域に生かす生涯学習～

【基本的視点】

1　社会の変化に対応した生涯学習の基盤づくりと多様な学習機会の活発化を図る。
2　学校・家庭・地域が連携して家庭・地域の教育力の向上に取り組む。
3　地域課題を学び、課題解決にむけて住民が主体となった地域活動を推進する。

【施策の柱】

1　生涯学習の基盤づくり

- **生涯学習の基礎づくり**
  - 幼年期の家庭教育の重視
  - 青少年期の地域とのかかわりの重視
- **多様な学習機会の活発化**
  - 中・高齢者の学習機会の充実
  - 働き盛り世代の学習機会の充実
  - 指導者・推進役の人材養成
- **学習情報の提供体制の充実**
  - 情報共有化と多様な情報発信
  - 生涯学習推進センターの機能強化

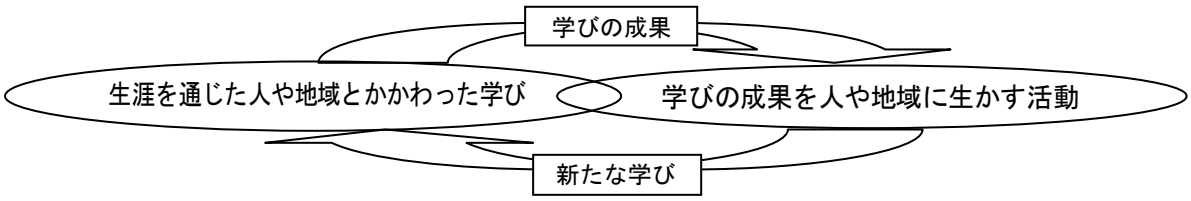
2　子どもの未来づくり

- **子どもと大人の「共育」の推進**
  - 放課後事業や学校支援等の拡充
  - ＰＴＡ活動の活性化への期待
- **豊かな交流・体験活動の推進**
  - 伝統文化伝承、自然・農業体験活動の推進
  - キャリア教育、多様な交流活動の推進
- **地域の家庭教育支援**
  - 子育ての学習機会の提供
  - 地域で支援する体制づくり
- **学校・家庭・地域の連携協力**
  - 課題や目標の共有化
  - 開かれた学校、企業等へ期待

3　地域コミュニティの再生

- **地域課題の学習や地域活動の推進**
  - 地域課題の学習機会の充実
  - 中・高齢者や青少年を核に
- **地域活動・ボランティア活動への参加促進**
  - 地域活動やボランティア活動への期待
  - 学校・企業等における活動促進
- **地域の学習や活動の拠点づくり**
  - 地域づくりの総合的な拠点　公民館
  - 地域を支える情報拠点　図書館
  - 地域の大人も学ぶ拠点　学校
- **関係機関等との連携**
  - ＮＰＯ・企業・大学等との連携推進

【めざす姿】《 学びが循環する社会の創造 》



【重点項目】　「つ・な・が・り」で築く長野県の生涯学習

「つ」: つなぎ役と推進役の人づくり　➡　コーディネーター・指導者の養成と活用
「な」: 長野の魅力を次世代へ継承　➡　地域の「文化力」を再発見する活動の推進
豊かな自然を生かした体験活動の推進
「が」: 学習や地域活動の拠点づくり　➡　全国最多の公民館を活用した地域活動の推進
「り」: 利便性の向上と連携・協働の推進　➡　ＩＣＴ活用、民間・大学等との連携・協働の推進

※「地域力」・・・住民等が自立しつつ協働して、地域課題を解決したり、地域の価値を創造したりする力
※「文化力」・・・文化芸術のもつ「人を感動させ魅了する力」や「地域の魅力や価値を高める力」等（『長野県文化芸術振興指針』の定義）

長野県生涯学習審議会委員名簿

（五十音順、敬称略）

氏　名	役　職　等
北林　瑞穂	飯島町社会教育委員
木下　巨一	長野県公民館運営協議会副会長
小林　文子	長野市立若槻小学校長
白戸　　洋	松本大学総合経営学部教授
塚田　芳樹	(株)蔦友代表取締役社長
土井　　進	信州大学教育学部教授
東福寺　裕子	長野県PTA連合会理事
中村　雅代	日本労働組合総連合会長野県連合会副会長
三澤　育子	企業組合Vif（びふ）穂高副理事長
山崎　　弘	安曇野市商工会委託観光特産飲食振興コーディネーター
山本　裕一	国立教育政策研究所　社会教育実践研究センター長

（任期：平成24年8月30日から平成26年8月29日まで）